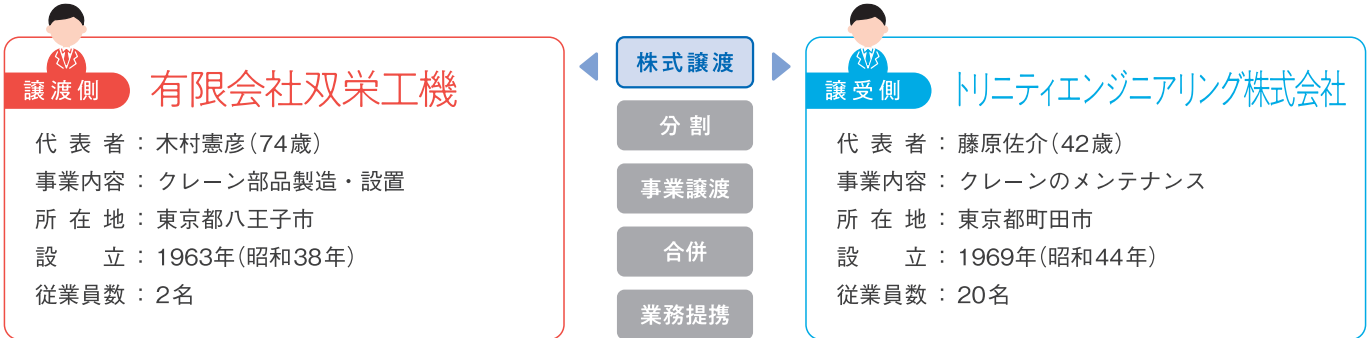
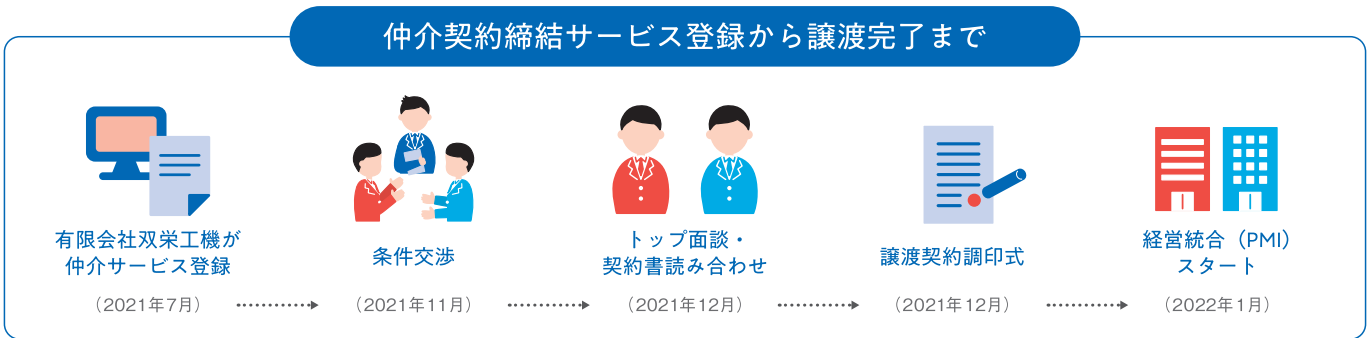


事業継続のためにM&Aを選択、 シナジーによるさらなる成長に期待



2022年1月現在



1 一度は不調に終わった事業承継

1963年設立の有限会社双栄工機の事業内容は、クレーン部品の製作および設置工事など。代表取締役の木村憲彦氏(74)には後継者がいなかった。一方、譲受側のトリニティエンジニアリング株式会社はクレーンの法定点検・メンテナンスなどを手掛ける有限会社藤原電機製作所のグループ会社で、代表取締役の藤原佐介氏(42)は以前、双栄工機で仕事を教わり、経験を積んできた。木村氏は藤原氏への事業承継を検討したこともあったが、その時は買収資金が調達できず、断念していた。



双栄工機社内

2 これがラストチャンス

2021年8月に双栄工機は日本テクノとの電気保安管理契約の更新を迎えた。木村氏は、妻が病に倒れたことで限界を感じ、当社の営業担当に契約更新しない旨を伝えた。こうした経緯から当社のGIFT mapチームが木村氏を訪問。事業承継を念頭に、引き受け先を探すこととなり、トリニティエンジニアリングの名が再び浮上した。今回は藤原氏も「木村氏に恩返しする番だ」と考え、精力的に金融機関と交渉を行い、地元の信用金庫からの融資を取り付けた。



トリニティエンジニアリング社内

3 調印式は関係者が参集

相互の条件交渉を終え、2021年12月に株式譲渡契約の調印式が行われた。「やっとここまで辿り着きました。仲介役を買って出てくださいましたGIFT mapの担当さんはじめ、本日お集まりの関係各位に感謝しております。これからは少しゆっくり過ごそうと考えています」(木村氏)。「本日、新たな代表取締役として踏み出しました。お世話になった木村の親父の跡を継ぎ、もっと会社を強くしていきます」(藤原氏)。M&Aアドバイザーや士業、金融機関がチーム一丸となり、最終成約まで漕ぎ着けた。



調印式は融資を実行した信用金庫で行われた

4 クレーンに関するトータルソリューションを提供

両社は長年懇意な関係にあり、顧客のさまざまな依頼に共同で応えてきた。木村氏は引き継ぎなど含めてしばらく双栄工機に携わる予定だ。藤原氏は「2021年に国内クレーンメーカーで活躍していた方に、当社の相談役顧問に就任いただきました。相談役のアドバイスにより、経営状況が大きく好転してきています。この勢いで双栄工機の事業を引き継ぎ、さらなる業容拡大を実現したいですね」と話す。クレーンに関するトータルソリューションを提供する企業グループとして、今後一層の活躍が期待される。



無事に事業が引き継がれていった

今回のM&A成立のポイント

- Point 1 | 長年にわたり築かれた良好な関係
- Point 2 | クレーン製作とメンテナンスの相乗効果
- Point 3 | 専門家とアドバイザーらによるチーム力

本事例は動画でもご覧いただけます



お客さまとお客さまをつなぐ

日本テクノのビジネスマッチングサービスは「お客さまとともに新たな可能性や魅力を探していく」という目的でスタートしました。経営指標だけでは判断できない経営者の思いなど、さまざまな事情を考慮して双方の利益を最大化し、統合後の成長戦略を促進させられるよう、あらゆる可能性をともに考えていきます。



日本テクノ株式会社

日本テクノ ビジネスマッチング

<https://gift-map.jp/>



本社 営業本部 営業企画部：〒163-0651 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 51F
MAIL：support@gift-map.jp TEL：03-5909-7019

個人情報の利用目的

弊社は個人情報保護法を厳守し、事業に関するご案内の送付、お問い合わせ時の対応、およびお客さまに有益と思われる情報の提供などのために利用させていただきます。